

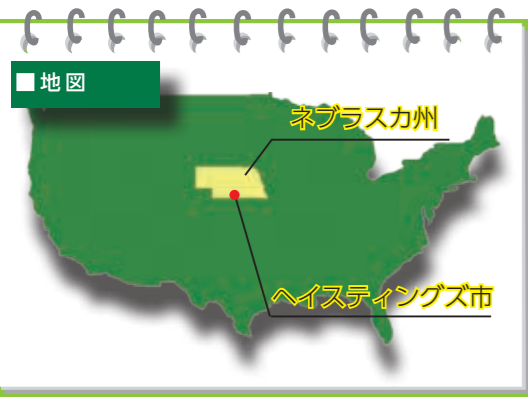
# 夢のような体験とすばらしい感動

平成29年度人づくりまちづくり海外派遣事業（ホームステイプログラム）報告

大津町の中高生を対象に姉妹都市である米国ヘイスティングズ市へ派遣する事業を行いました。

現地の文化や習慣などを、ホームステイを通じて学ぶプログラム。昨年は熊本地震の影響で実施されなかったため、今年は2年ぶりの開催となりました。14人の中高生たちが7月22日から8月2日までの12日間にわたって、異文化を学ぶことができました。

このホームステイプログラムは、「国際的視野をもつまちづくりのリーダー育成」を目的とした中高生対象の海外派遣事業です。事前に何度も学習会を行ってから臨んだ現地での生活体験。濃厚で有意義な12日間を終え、帰国した後もこのプログラムの報告会を行うなどしました。私たちが行ったヘイスティングズ市は、アメリカ中部のネブラスカ州にあり、町とは姉妹都市の関係にあります。その関係の架け橋となったのは約20年前に大津町で小中学校の英語指導助手を務めたブレント・ウォルゼンさん。彼の尽力で結ばれた友好関係の絆は、今日までの長きに渡って大切に育てられています。



## ■主な行程（スケジュール）

- 7月22日（土）**  
阿蘇くまもと空港⇒中部国際空港  
中部国際空港⇒デトロイト空港  
デトロイト空港⇒オマハ空港
- 7月23日（日）**  
ヘンリー・ドーウリー・動物園見学  
ホストファミリーと対面式
- 7月24日（月）**  
ヘイスティングズの歴史的地区の紹介と散策  
クラフト・ジュエリー製作体験  
パチャー・ソープツアー（石けん工場見学）
- 7月25日（火）**  
ヘイスティングズ高校見学  
農場見学、ウォーターパークで交流会
- 7月26日（水）**  
博物館を見学  
グランド・アイランドのモール見学
- 7月27日（木）**  
ヘイスティングズ大学見学  
YMCA訪問
- 7月28日（金）**  
プレーリー・ロフト・センターで自然学習  
ポットラックパーティー
- 7月29日（土）～30日（日）**  
ホストファミリーと自由行動
- 7月31日（月）**  
ホストファミリーとお別れ  
オマハ市内散策
- 8月1日（火）**  
オマハ空港⇒デトロイト空港  
デトロイト空港⇒中部国際空港
- 8月2日（水）**  
中部国際空港着  
中部国際空港⇒阿蘇くまもと空港



1交流を深めることができたウォーターパーク2地平線まで続く大豆畑に感動3初めて乗ったジェットスキー4博物館ではヘイスティングズ市の歴史の勉強。大きな木製の馬と一枚



## プログラムを体験して

ここでは、プログラムを体験した中高生たちが、現地の生活習慣や文化、地理、設備などに触れて感じた率直な感想と、現地での主な行程を報告します。

●日本の一般的な家庭で地下室を見たことがなかったので、アメリカではよくあるということに驚きました。  
馬場穂乃香（大津北中学校1年）

●ホストファミリーとチーズケーキを作ったり、ロデオに行ったりと楽しい思い出や初めての経験がたくさんできました。  
関校（大津北中学校3年）

●このプログラムに参加して一番感動したことはアメリカ人のオープンな心です。私もアメリカ人のようにオープンな心で接したいと思いました。  
原野ももか（大津高校2年）

●アメリカでは集団行動や時間を守ることはもちろん、物事を大きく捉え、広い心をもって生きていくことを学びました。  
田上航（大津高校2年）



●この体験を生かし、将来は外国に携わる仕事をしたり、日本の文化を外国に伝えたりしていきたいです。  
鴨井成美（大津高校2年）

●一番不安だったコミュニケーションはホストファミリーのおかげでほとんど問題なくできたのでよかったです。  
中根陸（翔陽高校2年）

●ホームステイから学んだことは、間違っことを恐れないで挑戦することが大事だと学びました。  
池田結莉（翔陽高校2年）

●アメリカの人はフレンドリーで接しやすく、土地や建物は、広くてほとんどのものが最新でも発展していました。  
鳥丸稜平（大津高校2年）

●ホストファミリーは本当の家族のように接してくれて、毎日美味しいものをたくさん作ってくれました。  
東瑞妃（済々黌高校2年）



●プログラムに参加して言語よりも大切なものがあることを知ることができました。それは伝えようという思いと相手の事を分かろうとする姿勢です。  
小山田雪乃（熊本高校2年）

●延々と続くトウモロコシ畑があり、見渡す限り畑、畑でした。地平線までトウモロコシ畑ではないかと思いました。  
本田こ葉（熊本北高校2年）

●ホストファミリーの家では、地下で卓球やビリヤードをしました。クローラーがずっとついていても快適で楽しかったです。  
下飛田百音（熊本北高校2年）

●本当の家族のように接してくれたホストファミリーと過ごした時間は一生忘れられない思い出になりました。  
杉水星乃（熊本商業高校3年）



●言葉が通じないという事が初めはとても不便と思っていました。が、日を追うごとに自然と大体の内容がわかってきて、自らジェスチャーを使ったり何とかコミュニケーションをとろうとしている自分に驚くほどでした。  
福島朱凜（大津高校3年）



※この記事はホームステイプログラムに参加した、原野ももかさん、本田こ葉さん、中根陸さん、鳥丸稜平さんが作成しました。